

令和7年度 調布市立染地小学校 学校評価報告書 (学校長 八木橋 小百合)

学校の教育目標						
○あたたかく(自分も人も大切にす力) ◎たくましく(自分で考えて行動する力) ○まえむきに(自分からチャレンジする力) 生きる子ども						
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像						
みんなでつくる みんなが大好き 染地小学校 (児童・教職員・保護者・地域の一人一人が主役 みんなで力を合わせて大好きな母校をつくる)						
調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>(数値はアンケートでの肯定的評価。保=保護者, 児=児童)						
	1 豊かな心(徳)		2 確かな学力(知)		3 健やかな体(体)	
自己評価	(1) 具体的な取組		(1) 具体的な取組		(1) 具体的な取組	
	①あいさつ運動の実施, マイあいさつ運動の実施	評価 A	①自由進度学習への教員の取組による児童の主體的な取組み	評価 B	①外遊びの推奨, 体力向上の取組(持久走, 大縄, 夢おりクラブの活用, 走り方教室等)	評価 B
	②気持ちを話そうタイムの実施	評価 B	②校内研究での取組, 研究授業 4 回実施, 授業観察, ミニ研修の実施	評価 B	②食育推進の取組, 保健指導年 3 回の取組	評価 A
	(2) 成果(数値目標に対して)		(2) 成果(数値目標に対して)		(2) 成果(数値目標に対して)	
	①あいさつする児童(保)81.4%(+5.7)(児)87%(+8.2)	評価 A	①自由進度楽しい児童(保)89.1%(-0.2)(児)85.8%(+1.4)	評価 B	①身体を動かすこと(保)77.5%(-0.3)(児)83.5%(+5.7)	評価 B
②自分の気持ちを話すことできた(見低)77.4%(見中)49%(見高)33.7%(見たけ)77.8%全体 55.7%	評価 B	②自由進度チャレンジできた教員53.3%(力になった)46.7%(やや力)肯定的 100%	評価 B	②自分の健康に意識をもつ(保)75.6(+4.2)(児)96.6%(食育アンケート)	評価 B	
学校運営協議会評価	地域もいろいろな活動の中で, 大人から挨拶をすることで子どもも挨拶をするようになってきている。「家庭教育セミナー」で行った防犯の観点から言うと, 声を出さなくてもその子なりのあいさつの仕方があって良いとのことだった。大人から声をかけることが大切だと感じている。学校と協力して今後も取り組みたい。		先生方が, すすんで研究に取り組まれている姿勢が良い。子ども達が楽しいと感じているのが良い。「わかっていない子ども, 困っている子ども」を見つけて, 先生が寄り添う指導を継続して頂きたい。		学校の取組はとても良いので継続して頂きたい。地域では, 「スポーツ鬼ごっこ」や「ドッジビー」を継続して取り組んでいく。酷暑対策として, 夏休み中に, 体育館を大いに活用して子ども達がスポーツに親しむ取組を行っていきたい。	
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>						
	4 特別支援教育の充実		5 保護者・地域の教育力の活用		6	
自己評価	(1) 具体的な取組		(1) 具体的な取組		(1) 具体的な取組	
	①異学年交流活動, 共同学習の実施	評価 B	① 体験学習の実施(多摩川, キャリア教育, 町たんけん)	評価 A	①	
	②合理的配慮委員会の実施・個別支援の充実	評価 B	②学校だよりのリニューアル, ホームページの更新	評価 A	②	
	(2) 成果(数値目標に対して)		(2) 成果(数値目標に対して)		(2) 成果(数値目標に対して)	
	①ハチの子活動, 交流活動, 共同学習(保)73%(+13%)(児)61%(+11%)	評価 B	① 体験学習の充実(保)89.7% 新設項目	評価 A	①	
②いじめ, 個別の配慮等の支援の実施。	評価 B	②学校の情報発信(保)85.2%(-7.7%)	評価 A	②		
学校運営協議会評価	地域の目からも, 普段の子ども達の様子を見て子ども同士つながりを感じる。「差別」するのではなく, その子自身を受け入れている様子が見られる。学校でのいろいろな関りがそういう意識を育てているのだと思う。地域でも, 「心を傷つけるような言葉は相手に言わない。」と指導している。保護者も子どものようにつながっていけると良い。		今年取り組んだ体験学習が, 継続していくように工夫をしていきたい。毎年同じやり方で行くだけでなく, いろいろなことを考慮して持続可能な形で行っていく。			
人材育成・組織運営						
自己評価	・チーム担任制・学年教科担任制のシステム構築の中で, 各チーム「学びあう力」や「助け合う力」が高まってきている。特に, 若手教員が先輩教員に相談したり, 力を借りる場面が多くみられたりした。来年度も, 継続してチームとしてのバランス力を高めていきたい。・研究主任中心に, ミニ研修が計 8 回実施できたことや積極的に主任教諭が ICT 研修を開催し, 研修意欲が高まった。小規模校で, 行事や学校課題解決のために結束する力が強いのが本校の強みである。しかし, それが教員一人一人の負担にならないように学校全体, チーム全体のバランスを考え, 一人一人が楽しく仕事ができるようにしていきたい。					
学校運営協議会評価	先生方の仲が良いことが, いろいろな場面で伝わってきて嬉しく思っている。ただ小規模校なので, 先生方の多忙感・負担感は測り知れないと感じている。先生方が困ったら, その相談に乗れる CS でありたい。いろいろな困難があるだろうが, 一つ一つ教訓にしていってほしいし, 私たちも協力するので, 一緒に乗り越えていく学校になってほしい。					

### 中期的な経営目標の達成状況

- 1 個人差はあるが、自分から周りの人にあいさつをする児童が増えた。やさしい言葉がけをするのは、引き続き課題である。
- 2 自由進度学習を取り入れたことにより、自分のペースで学習を進める姿勢はできつつある。友達との学び合いを通して、自らの学びを深めていくことは引き続き課題である。
- 3 ほとんどの児童は、外遊びの日常化や体力向上の取組の充実を図りながら、運動することの楽しさを味わうことができている。インドア派の児童にどう取り組ませるかが引き続き課題である。
- 4 小さなトラブルも丁寧に大人が聞きとり、児童にとって、いじめがなく、安全・安心な環境づくりができたが、学年の発達段階や学級の雰囲気などで解決が難しい面があったので、引き続きの課題とする。
- 5 特別支援教育の推進を図り、どの児童にも居場所がある環境づくりは概ね達成できた。新たな個別の課題に対して向き合っていく。
- 6 教職員・保護者・地域と連携力を合わせることが概ねできた。地域のことが大好きかどうかを子供に聞いていきたい。一人一人がこの学校をつくるという思いや意識をもつことができた。また、チーム担任制のシステムが強化され、みんなと力を合わせて一つ一つの課題に取り組み、乗り越える組織体制ができてきた。更に強化できるよう引き続き課題とする。

### 次年度の重点課題

- 【チーム担任制の強化】◇チーム担任制の強化、全校担任への教員の意識改革。
- 【自分にとってすきな学校にするための取組】◇60周年へ向けて、児童がやりたいこと行事や学校生活の中に取り入れていくくみを考える。
- 【体力・運動能力の向上】◇体力・運動への関心を高める取組の展開。
- 【交流の目的を明確にした取組】◇今までの交流の在り方の見直しをする。◇給食交流の日常化の推進。◇理解教育の推進。